

3-2. 温室効果ガス排出量の将来予測

各部門の指標を用いて、特段の対策を取らなかった場合の1998年、2000年および2010年における各ガスの排出量を予測しました。

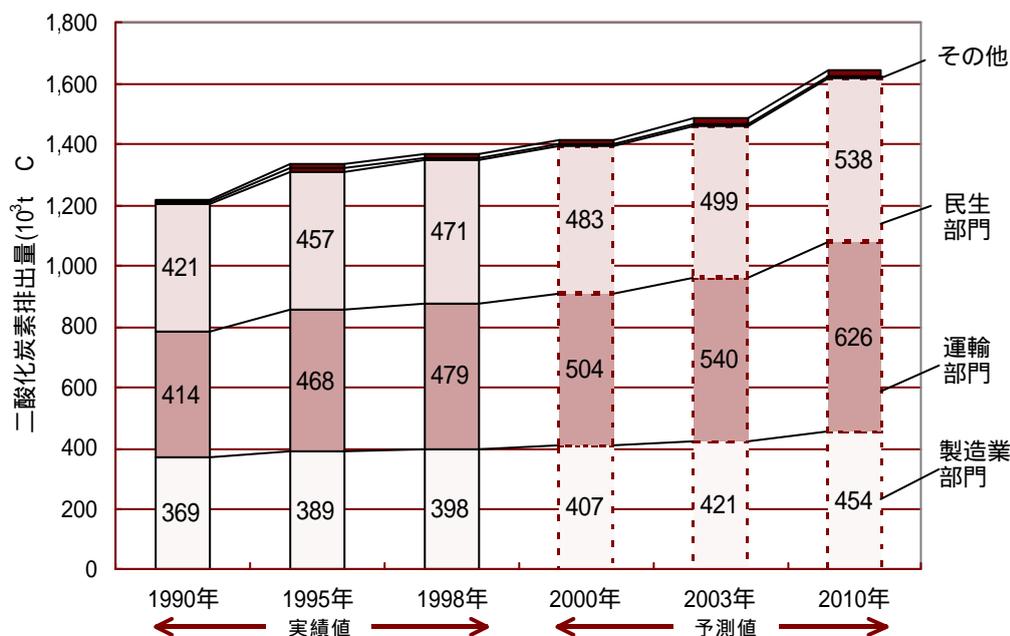
その結果、1990年比で、二酸化炭素は2000年で17%増、2010年で35%増と大幅な増加傾向を示し、県内で排出される温室効果ガスの大幅な増加が予測されています。

なお、この予測結果はエネルギー効率や電力の二酸化炭素排出原単位が現状の状態のままであるとみなした場合の推計値です。

表 3-2-1. 島根県における二酸化炭素排出量の将来予測結果

単位(10³t-C)

区分	1990年	1995年	1998年	2000年	2003年	2010年
エネルギー	1,210.03	1,320.62	1,356.60	1,401.81	1,469.63	1,627.87
燃料の燃焼	1,210.03	1,320.62	1,356.60	1,401.81	1,469.63	1,627.87
エネルギー産業部門	5.57	7.33	8.30	8.56	8.95	9.86
製造業部門	368.78	388.74	397.81	407.11	421.07	453.64
運輸部門	414.22	+13% 467.71	+16% 479.09	503.57	540.29	625.98
民生部門	421.46	456.84	471.39	482.57	499.31	538.39
民生業務系	203.45	189.36	197.32	200.48	205.21	216.26
民生家庭系	218.00	+23% 267.48	+26% 274.08	282.09	294.10	322.13
廃棄物	10.57	14.56	15.91	16.53	17.45	19.56
廃棄物の焼却	10.57	14.56	15.91	16.53	17.45	19.56
合計	1,220.60	1,335.18	1,372.51	1,432.29	1,487.08	1,647.43
1990年比(1990年を100とした)	100	109	112	117	122	135



注)1998年の実績値は一部推計値を含んでいます。

図 3-2-1. 島根県における二酸化炭素排出量の将来予測グラフ

温室効果ガスは種類により温暖化に影響する度合いが異なります。そこで、地球温暖化指数(GWP)^{注1)}を用いて、島根県における1995年度の二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素の3つの温室効果ガス排出量をもとに、それぞれのガスの寄与度を比較しました。これによると、二酸化炭素の寄与度が最も高いと言えます。

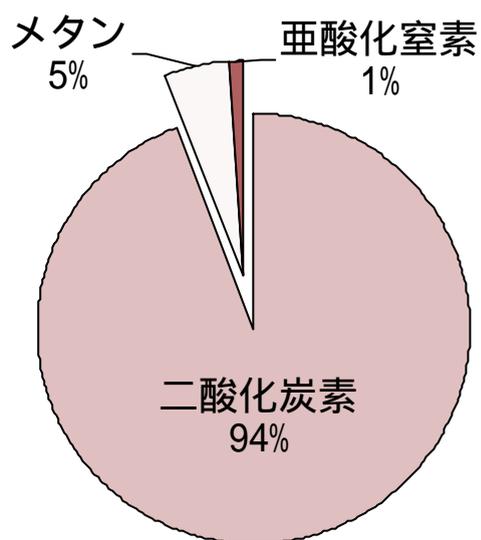


図 3-2-2. 各温室効果ガスの地球温暖化への寄与度の比較

注 1) IPCC (気候変動に関する政府間パネル) が発表した地球温暖化指数(GWP)によると、積算期間100年(各温室効果ガスが100年間に及ぼす地球温暖化の効果)の場合、二酸化炭素を1とするとメタンは21倍、亜酸化窒素は310倍もの影響力をもっているということになります。

出典) 島根県「温室効果ガス排出量基礎調査報告書」平成10年3月